



行政視察報告書

*期 日

令和元年10月23日(水)～25日(金)

*調査地

・兵庫県相生市

「子育て支援施策『11の鍵』」について

・滋賀県栗東市

「栗東100歳大学」について

茨城県古河市議会

文教厚生常任委員会

*関係資料については、議会事務局に保管してあります。

令和2年3月19日 報告

| | |
|------|-------|
| 委員長 | 鶴見久美子 |
| 副委員長 | 小山高正 |
| 委員 | 古川一美 |
| 委員 | 鈴木務 |
| 委員 | 阿久津佳子 |
| 委員 | 大島信夫 |
| 委員 | 青木和夫 |
| 委員 | 長浜音一 |

相生市

【相生市の概要】

相生市は兵庫県の南西部に位置し、姫路市へはJ R山陽本線・山陽新幹線で東へ21 km、さらに神戸市へは76 kmの距離にある。

南は風光明媚な瀬戸内海国立公園の一部を含み、北は播磨科学公園都市、北東は「赤とんぼ」の詩情豊かなたつの市、西は「赤穂義士」で名高い赤穂市に接し、海岸部から平地、山間部へと伸びる南北に長い市域である。

造船業を中心とした工業都市として発展してきたが、現在、社会変化に対応するまちづくりを展開している。また、西播磨テクノポリスの副母都市として、産業・経済の基盤づくりを進めている。

1年を通じて瀬戸内海特有の穏やかな気候風土に恵まれており、瀬戸内海国立公園、西播磨丘陵県立自然公園など自然景観を活かした観光施設として、「万葉の岬」「羅漢の里」などや市の伝統行事であるペーロンをテーマにした「白龍城(ペーロンジョウ)」があり、天然温泉などが楽しめる。

人口 29,370人 面積 90.40 km² (令和元年8月末日現在)

調査事項

子育て支援施策「11の鍵」について

1. 子育て支援施策「11の鍵」の策定に至る経緯について
2. 子育て支援施策「11の鍵」の概要・特色について
3. 子育て支援施策「11の鍵」の効果・利用者の反響について
4. 各事業の利用状況について
5. 今後の展開及び課題等について

【調査事項】 「子育て支援施策『11の鍵』」について

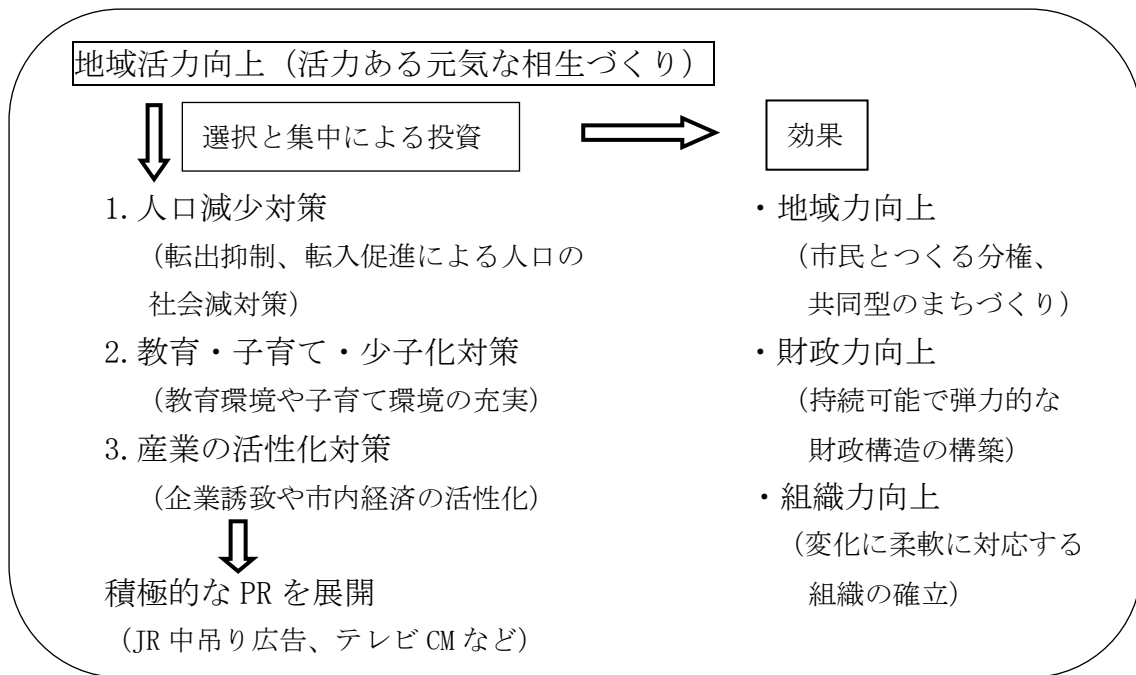
1. 「子育て応援都市宣言」に至るまで

『第1期相生市行財政健全化計画（平成18～22年度）』を策定、平成18年4月よりスタートした。

第1期計画は目標達成。その中で将来の人口減少が最重要課題となる。

- ・最高人口は、昭和49年の42,188人。減少を続けている。
- ・年少人口（15歳未満）が県下で最下位12.3%。（兵庫県平均14.2%）
- 人口問題研究所が予測する2040年の推計人口によると、30年後も年少人口割合は県下市町でも下位のまま（減少率△62%）。
- ・課題解決のため、“相生市の活力向上”をめざす。

『第2期相生市行財政健全化計画（平成23～27年度）』をスタート



相生市の目指す方向として、

「選択と集中」により、自主的・自律的な地域経営を目指す。

→ 「子育て応援都市宣言を行い、子育て世代をターゲットに定住促進を図る」

【子育て応援都市宣言】平成 23 年 4 月 1 日宣言

子どもは次代を担うかけがえのない存在であり、子どもたちが夢と希望をもち、健やかに育つことは、わたしたちの願いです。

子どもを産み育てやすい環境をつくり、心豊かなたくましい人を育てることは、わたしたちの使命です。

わたしたち相生市民は、子供の笑顔があふれ、子育てに喜びを実感できるよう、家庭、地域、学校、行政みんなが手を携え、地域全体で子育てを支えるまちを目指し、ここに「子育て応援都市」を宣言します。

2. 子育て支援施策「11の鍵」の概要について

「あいおいが暮らしやすい11の鍵」として、市内外への PR を展開

| | |
|-------------------|-----------|
| 1. 新婚世帯家賃補助金交付金事業 | 23,850 千円 |
| 2. 住宅取得奨励金 | 17,500 千円 |
| 3. 妊婦健康診査補助 | 19,416 千円 |
| 4. 出産祝金支給 | 2,403 千円 |
| 5. こども医療費助成 | 43,000 千円 |
| 6. 子育て応援券交付 | 5,870 千円 |
| 7. 3歳児保育事業 | |

| | |
|---------------------|------------|
| 8. 市立幼稚園預かり保育事業 | 5,757 千円 |
| 9. 給食費無料化 | 106,544 千円 |
| 10. 相生っ子学び塾事業 | 3,595 千円 |
| 11. ワンピース・イングリッシュ事業 | 24,784 千円 |

(事業費は平成31年度当初予算額)

3. 子育て支援施策「11の鍵」の効果・利用者の反響について

発表時には多くの意見が寄せられた。

- ・なぜ、子育て世代だけの支援なのか
- ・食に関して（給食費）は保護者が負担すべきではないか
- ・高齢者福祉サービスが後退するのではないか
- ・短期間で終わってしまうのではないか
- ・財政的に続けていけるのか

- 第1期行財政健全化による効果を使い、財政状況についても中長期のシミュレーションのうえ実施
- 高齢者福祉サービスは維持
- 議会、市民への理解を得るため、コスモトーク（市民対話集会）等を通じて説明

4. 各事業の利用状況について

各種支援事業の実績状況（資料より一部抜粋）

| | 平成23年度 | 平成26年度 | 平成28年度 | 平成30年度 |
|-----------|--------------------|---------|---------|---------|
| 出産祝い金 | 223件 | 223件 | 219件 | 195件 |
| 子育て応援券 | 230件 | 264件 | 246件 | 233件 |
| マタニティタクシー | - | 297件 | 224件 | 203件 |
| 新婚家賃補助 | 57件 | 67件 | 61件 | 48件 |
| 定住者住宅奨励 | ※若者51件、 ※転入者14件 | 48件 | 70件 | 78件 |
| こども医療費助成 | 6,559件 | 13,454件 | 14,033件 | 14,567件 |
| 保育料軽減 | 679人 | 637人 | 657人 | 629人 |
| 学校給食 | 2,663人 | 2,486人 | 2,437人 | 2,420人 |
| 預かり保育 | 69人 | 73人 | 95人 | 64人 |
| 相生っ子学び塾 | - | 193人 | 289人 | 224人 |

※「定住者住宅奨励」は、H23～H25まで「若者住宅奨励」と「転入者住宅奨励」だった。

5. 今後の展開及び課題等について

子育て世代に対して「子育て応援都市、相生」が広がってきた。

【最大目標】 定住者を増やすこと

定住する場所として相生市を選ぶ理由としては、教育・子育て支援及び住宅取得助成のみではなく、住環境や交通の利便性などの要素も大きいと考えられる。

- 平成28年度より動画や多媒体を活用したプロモーション活動の本格実施により「相生市」そのものの認知度をあげる。
- 今後もPRと分析の継続が必要

地域創生総合戦略である「相生市もっと活力上昇計画」を軸とし、ターゲットを明確にした事業を展開する。

【兵庫県相生市での視察研修】

研修①



研修②



相生市議会議場



【栗東市の概要】

栗東市は滋賀県の南部に位置し、市の北部は平坦地、南部は緑豊かな山地となっている。

国道1号・8号の通過、名神高速道路栗東インターチェンジの設置など、交通の要衝として、製造業・商業・流通業など数多くの企業が立地している。

平成3年には、JR琵琶湖線栗東駅が開設されたことにより、京阪神への通勤圏となり、大規模な住宅整備が進み、人口増加が続いている。

平成13年10月1日、滋賀県内8番目の市として「栗東市」が誕生。「ひと・まち・環境 ともに育む『健やか・にぎわい都市』栗東」の実現に向け、まちづくりを進めている。

人口 69,999人 (令和元年9月1日現在)

面積 52.69 km² (平成30年10月1日現在)

調査事項

「栗東100歳大学」について

1. 栗東100歳大学の実施に至る経緯について
2. 栗東100歳大学の概要・特色について
3. 具体的な取り組みについて
4. 事業の実績・効果について
5. 今後の展開及び課題等について

【調査事項】 「栗東100歳大学」について

1. 栗東100歳大学の実施に至る経緯について

人生100歳時代に目指すもの

【栗東市の強み】

- ・若いまち（人口69,999人、高齢化率65歳以上18.67%、75歳以上8.65% R1.9.1現在）
- ・低い要介護認定率（要支援・要介護認定率15.1% H31.4.1現在）
- ・アクティブシニアが活躍
- ・「自助」「互助」の関係構築が可能
- ・市民自らが社会状況を理解し、健康づくりや助け合いなど「自助」「互助」を構築
- ・要介護認定率抑制を図る
- ・健康寿命の延伸を図る

体系化されたカリキュラムを通じた自らの関心に応じた「学び直し」

2. 栗東100歳大学の概要について

【栗東100歳大学 1～3期】

対象者 65・66歳の新規高齢者

平成27年度 1,648人 入学41人・卒業37人

平成28年度 1,470人 入学23人・卒業22人

平成29年度 1,359人 入学14人・卒業13人

期間 1年間（10月～翌年7月）

カリキュラム 「総論」・「健康づくり」・「生きがいくくり」・「福祉」・
「地域」・「幸せづくり」

授業 週1回40回（1コマ90分） 市民を対象とした公開講座
講義、演習、施設や現場での実習

事業費 介護保険特別会計 地域支援事業 一般介護予防

平成27年度 委託料1,245千円

平成28年度 委託料4,155千円、高齢者生きがいくくり活動促進事業
補助金1,156千円

平成29年度 委託料4,345千円

その他 卒業式：学長（市長）より卒業証書授与

3. 具体的な取り組みについて

栗東100歳大学カリキュラム

I. 総論 II. 健康づくり III. 生きがいくくり IV. 福祉

V. 地域 VI. 幸せづくり

第1期卒業生への支援

卒業生を中心とした地域活動を解決できる「新しい活動団体の立ち上げ」

支援事業（平成28年度高齢者生きがい活動促進事業）

① 失業後の新たな活躍・社会貢献での生きがいくくり

② ①を可能とする枠組み・きっかけとしての活動

いきいき活動ポイント事業

第2期卒業生 社会貢献活動（近隣市の子育てサロン視察9

第3期 栗東100歳大学 ・オープンキャンパス ・公開講座

平成29年10月5日開校

4. 事業の実績・効果について

講義 + 実技、テーブルトーク

第1期（平成27年度） 41回 出席率83.3%

第2期（平成28年度） 40回 出席率88.0%

第3期（平成29年度） 40回 出席率95.9%

生活実態調査（1～3期生）

- ・性別 男 39% 女 61% ・年齢 65～66歳 81% 67歳以上 19%
- ・生きがい あり 86%、なし 11% 不明 3%
- ・趣味 あり 80%、なし 11% 不明 9%

5. 今後の展開及び課題等について

平成30年度 市民が使いやすいようにカスタマイズしてリニューアル

1. 60～74歳行動・ニーズ調査の実施
2. シニアが活躍できるまちづくり協議会の開催
3. 栗東100歳大学のあり方の検討と事業内容の見直し



【栗東100歳大学 4期】多様な生き方を可能とする学びの場

目的 高齢者の入り口で老いの基礎基本を学び、自分の経験・知識・能力を生かして地域とつながり、就労、地域活動やボランティア活動など働くシニアを育てます。

大学で得られること

- ・「まなび」 老いの基礎基本、経験や知識や能力を地域で生かす学び直し
- ・「きずな」 新たな人とのつながり
- ・「はたらく」 就労、地域活動やボランティア活動

対象者 老いの基礎基本を学び、自分の経験・知識・能力を生かして地域とつながり、はたらこうとする65歳以上の市民

定員 40名

授業料 前期・後期それぞれ3,000円。（専攻科目は別途必要）

期間 基礎科目（30回）と専攻科目で概ね1年間（基礎・5月～翌年1月）

運営 公設民営（栗東市設置、一般社団法人健康・福祉総研に委託）

専攻科目は実施主催者が設置運営

場所 コミュニティセンター等の市内公共施設

専攻科目は市街の施設も含む

講師陣 各界現場の実践者、専門家、地域の人材を積極的登用

カリキュラム

基礎科目：「総論」「健康づくり」「生きがいつくり」「福祉」「地域」「幸せづくり」

専攻科目：「地域集い場づくり担い手養成」「介護従事者養成」「防災士養成」「起業創業塾」

卒業後 リカレント教育：5講座/年 ホームカミングデイ：2～3回/年

- 授業 基礎科目 週1回30回(1コマ90分)
講義、演習、施設や現場での実習
専攻科目 専攻により異なる
- 仕組み 運営委員会設置
カリキュラム・講師、卒業生の活躍の場の協議
- 事業費 介護保険特別会計 地域支援事業 一般介護予防
平成30年度 委託料1,951千円、長寿社会づくりソフト事業費交付金
2,662千円
令和元年度 委託料3,240千円
- その他 卒業式：学長(市長)より卒業証書授与(終了科目の記載)
市民を対象とした公開講座(2から3回/年度)

栗東100歳大学

カリキュラム構造

- 専門科目4科目 地域での具体的なはたらき方
基礎科目6科目30講座 老いの基礎基本+地域の実態と活動

I. 総論

- 「人生哲学」 1. 人生100歳時代・現代社会と老い 2. 人とのつながりと老い

II. 健康づくり

- ・運動 3. 体と脳のメカニズム 4. 体力づくり 5. いきいき百歳体操
- ・栄養 6. 栄養と食事(フレイル予防) 7. 料理の魅力
- ・口腔 8. 歯のメンテナンスと機能
- ・健康診断 9. がん予防と健康診断 10. 薬の管理

III. 生きがいづくり

- ・生きがい 11. 生きがいと趣味 12. 老後の資金 13. 生きがいと起業
14. ボランティア活動への参加
- ・社会貢献 15. シニアの活躍 16. 趣味や特技を活かした地域活動

IV. 福祉

- ・福祉の実態 17. わが国の福祉の実態 18. 市の福祉の現状と課題 19. 高齢者福祉の現状 20. 児童福祉の現状 21. 地域共生社会と地域包括ケア

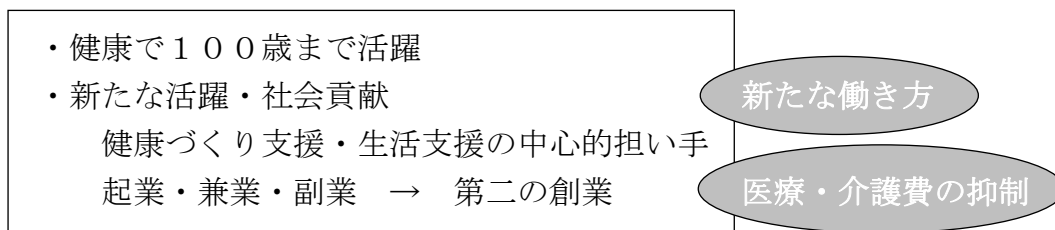
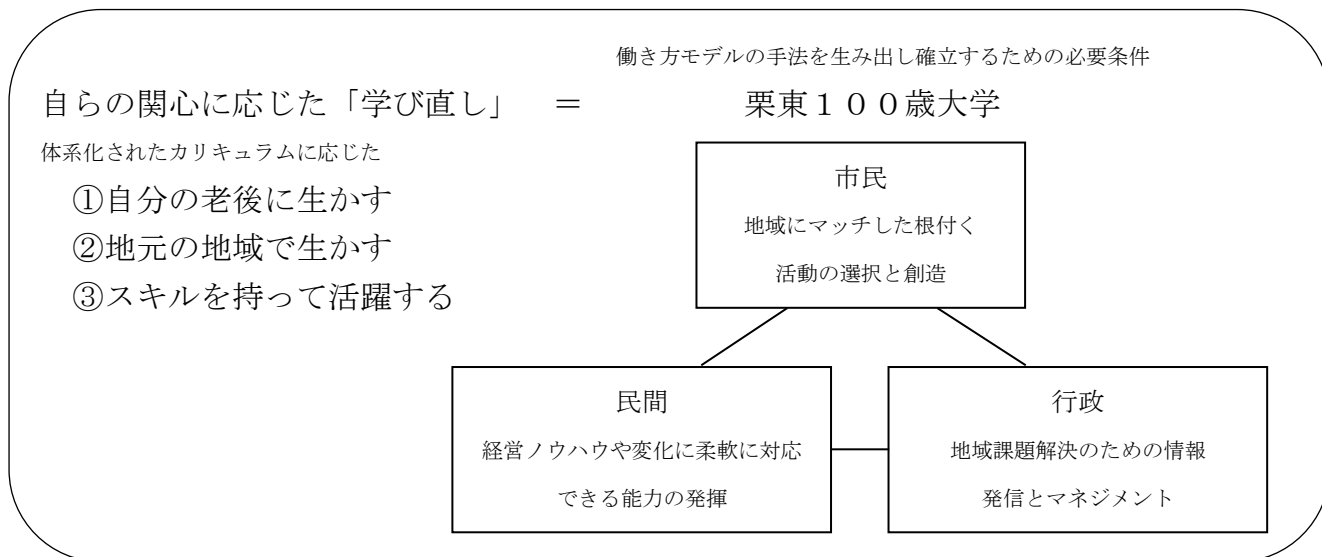
V. 地域

- ・地域の実態 22. 市の現状と課題 23. 認知症への理解 24. 災害への対応
25. 自治会の現状と課題 26. 子育ての現状 27. 老人クラブの活動 28. 地域の安心、安全の課題 29. 地元の歴史

VI. 幸せづくり

- ・幸せづくり 30. 感謝の心

人生100歳時代に目指すもの



健康寿命の延伸による 健康で豊かな老後

いつまでも住み続けたいくなる安心な元気都市 栗東

【滋賀県栗東市の視察研修】

研修①



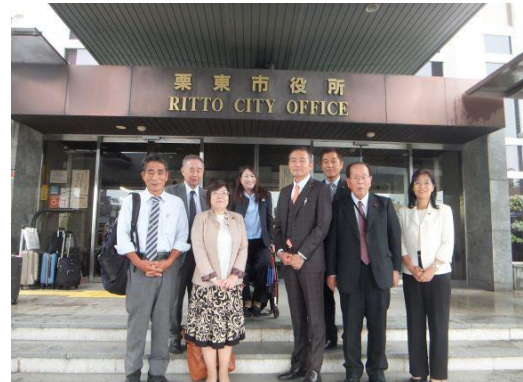
研修②



栗東市議会議場



栗東市役所



【視察後記】

当委員会は、相生市において「子育て支援施策『11の鍵』」、栗東市において「栗東100歳大学」を研究テーマとし、理解を深めるため行政視察を行った。

相生市では、未来を見据えた都市経営を理念に、地域全体で子育てを支えるまちづくりを目指して「子育て応援都市宣言」を行い、子育て世代を支援する施策に取り組んでいる。出産祝い金、保育料の軽減、新婚世帯家賃補助、住宅取得奨励金、給食費無料化等の11種類の施策を「子育て支援施策『11の鍵』」として積極的に展開してきた。このような施策を1度を実施した行政の決断には、人口減少に対する危機感と、首長の強いリーダーシップを痛感した。

視察を通して今後、本市でも自主的・自立的な都市経営を目指す上で、重要課題である子育て支援事業の充実に向けた取り組みが必要であると強く感じられた。

次に栗東市の「栗東100歳大学」については、元滋賀県知事である國松善次氏が提唱したもので、「健康長寿」を基本方針としており、『老い』を自分らしく生きるため、高齢者と若者との世代間交流を通じて共に支えあう「まちづくり」に挑戦し、“長生きしてよかった”と心の底から言える社会づくりを目指して2015年からスタートした。

1年間、毎週1回90分、年40コマ、6科目30講座の種類のカリキュラムで、『老い』の基礎知識や地域の実態と活動、行政の役割などを学び、大学卒業後は、自分の経験・能力を生かして就労する方や、地域とのつながりのなかで地域活動やボランティア活動などを行う方がおり、2019年度からは子育て支援員の資格を取得することができるようになった。

今後、さらに高齢化社会が進むが、栗東市の取り組みのように、本市においても高齢者の生きがいづくりや地域への参加を通して健康づくりや介護予防につなげ、「自助」「共助」の精神を育み、健康寿命の延伸を図る施策を推進していく必要がある。

今回、相生市と栗東市から学んだことは、本市も事業に取り組むうえで大いに参考となることであり、たいへん有意義な行政視察であった。